

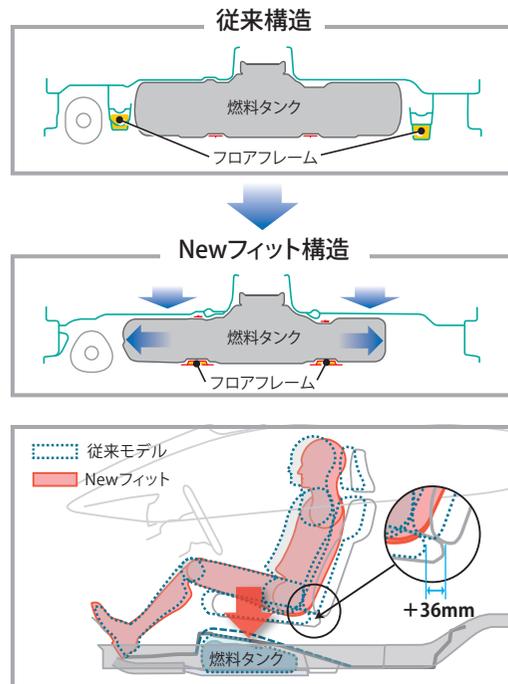
より快適な空間を目指してミリ単位で広さを追求。 ゆとりのキャビンと使いやすい荷室を実現。



広いフィットをより快適にお使いいただくためにあらゆる可能性を追求。フロントシートの調整量を拡大したほか、ホイールベース延長分を上回るゆとりのリア席や従来同等の広く使いやすいラゲッジスペースを実現しました。

フロントシート調整量の拡大

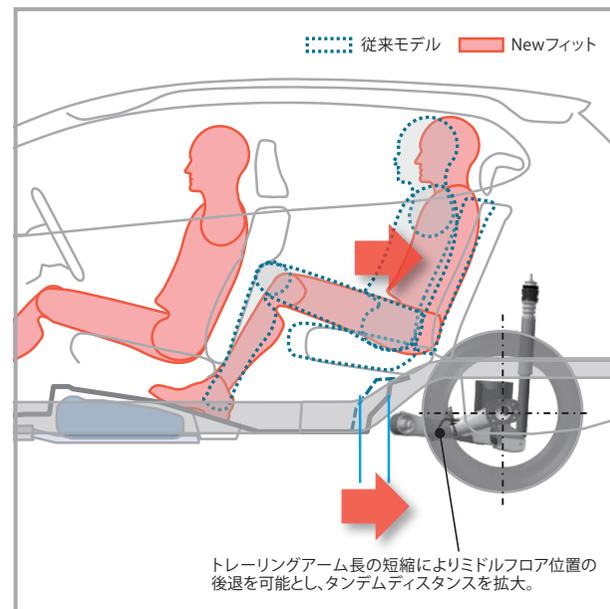
燃料タンクのサイドに配置していたフロアフレームを、タンク下に通す構造に変更し、燃料タンクを薄型化。従来モデルに対し、フロントシートの最低着座高さを10mm低くしました。また、シートスライド量を30mm以上拡大し、大柄の方でも快適な着座姿勢がとれるようにしています。



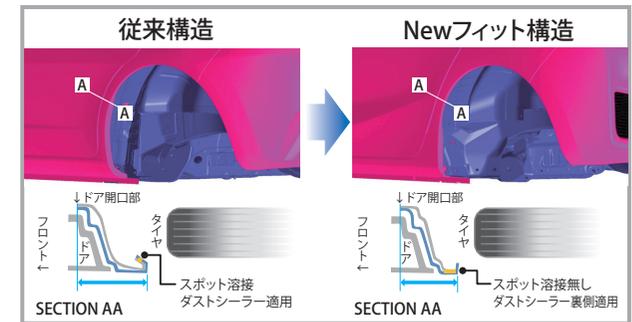
タンデムディスタンスの拡大

リアサスペンションの前後長短縮により、ミドルフロア位置を後退。さらに、リアホイールアーチのスポット溶接を廃止することで、フランジの短縮と乗降性の向上を図り、リア席の後方配置を可能としました。これらにより、従来モデルに対するホイールベース延長分30mmを大幅に上回る、80mmのタンデムディスタンス拡大を実現しています。

■タンデムディスタンス比較図



■リアホイールアーチフランジ比較図



テールゲート薄型化

テールゲートのロック機構をコンパクト化するとともに、締め付け位置を後方にレイアウトすることで、従来モデルに対し、テールゲート断面を35mm薄型化。荷室空間の拡大に貢献しています。

■テールゲートライニング位置比較図

